

知ってほしい、薬と薬剤師の仕事

第1回…決めよう！いつもの薬局

①

あなたは、ふだんから利用する「かかりつけ」の薬局をお持ちですか？

処方せんを持っていけば、日本全国の薬局でも薬を調剤してくれますが、顔なじみの薬剤師がいる『かかりつけ薬局』を一つ決めておくことを、私たちはおす

すめています。あなたが使用する薬を一つの薬局で管理することで、複数の医療機関から同じ薬が処方されたり、相互作用※が起きるのを防ぐことができるからです。

さい。昔の薬局には、薬はもちろん日用雑貨やベビー用品、介護用品、化粧品まで生活に必要な様々なものが、ところ狭しと並んでいました。そして奥に進むとガラス張りの調剤室があって白衣を着た薬剤師がいましたね。薬剤師は薬のことは

もちろん、健康に関する全般的なことから家庭の環境衛生のこと、子どもの理科の宿題まで、様々な疑問に答えていました。このことが、薬剤師が薬の専門家にとどまらず、「街の科学者」と呼ばれていた理由です。

販売から相談に至るまで、様々な役割を担っているのです。たとえば、かぜのひきはじめや頭痛でお困りのときに、症状に合わせて適切な市販薬を選択するお手伝いをしたり、場合によっては、受診を

おすすめしたりします。また、親の介護の支援、消毒の方法など、薬剤師は、薬をはじめとした様々な知識をもって健康に関する疑問に答えます。いつでも何でも気軽に相談できるかかりつけ薬局を一つ決めておくことが、皆さんの健康や生活に役立つと、私たちは考えています。

次回「探そう！かかりつけ薬剤師」をテーマに、薬剤師の役割などについてご紹介します。

※注意を要する飲み合わせ

東京都新宿区
四谷3-3-1
日本薬剤師会
<http://www.nichiya.ku.or.jp/>

